

附録 I 「ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア」研究会の歩み(2003－2004)

第1回研究会(2003年11月11日)

上田貴子(日本学術振興会特別研究員、京都大学人文科学研究所)「Харбинから哈爾濱へ—中国における国際都市の試み」

桑島裕子(北海道大学文学研究科博士後期課程)「ダライラマ13世のウルガ滞在—ロシア外交文書館資料から」

第2回研究会(2004年1月20日)

塚田力(北海道大学文学研究科博士後期課程)「中国新疆ウイグル自治区におけるロシア人の宗教活動」

神長英輔(東京大学総合文化研究科博士後期課程)「「北洋」とは何か—再構築された漁業史と対露観」

第3回研究会(2004年3月26～27日)

◇初期の露清関係：外交と通商

渋谷浩一(茨城大学人文学部)「18世紀前半の露清関係史における諸問題」

森永貴子(一橋大学社会学研究科博士課程)「イルクーツク商人とキャフタ貿易」

◇中国東北：国際関係の磁場における地域

永井リサ(九州大学比較社会文化研究科博士課程)「満州における林業調査と林業開発1895-1930」

中嶋毅(東京都立大学人文学部)「ハルビンのロシア人教育：高等教育を中心に」

◇「ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア」研究の一視角

西山克典(静岡県立大学国際関係学部)「クルバンガリー追尋：もう一つの「自治」を求めて」

◇大東亜共栄圏の崩壊とソ連接壤地帯

上田貴子(日本学術振興会特別研究員、京都大学人文科学研究所)「1945年8月15日を軸としたハルビン社会の変化」

田淵陽子(大阪外国語大学言語社会研究科修士・学術博士)「1945年東アジア国際関係と「内モンゴル人民共和国臨時政府」」

第4回研究会(2004年5月24日)

長縄宣博(東京大学地域文化研究科博士後期課程)「日露戦争期ロシア軍のなかのムスリム兵士」

松本郁子(京都大学人間・環境学研究科博士後期課程)「太田覚眠論—日露戦争とシベリア出兵をめぐる」

第5回研究会(2004年7月29～30日「サハリン・樺太の歴史」特集)

◇(特別講演) マリーナ・イシチェンコ(サハリン国立大学)「19世紀後半―20世紀初頭におけるサハリン島の人口」(ロシア語・通訳つき)

◇第1セッション

天野尚樹(北海道大学文学研究科博士後期課程)「ロシア」の範囲―19世紀後半におけるロシア人のサハリン認識」

麓慎一(新潟大学教育人間科学部)「19世紀後半における日露関係と樺太問題―幕末・維新时期を中心に」

◇第2セッション

倉田有佳(北海道大学文学研究科博士後期課程)「Kh・P・ビリチの生涯―20世紀初頭のロシア極東と日本」

◇第3セッション

井潤裕(北海道大学スラブ研究センター非常勤研究員)「ユジノ-サハリンスク その都市史論的予備考察」

板橋政樹(日本ユーラシア協会北海道連合会)「日露戦争と樺太「残留ロシア人」」

◇第4セッション

池田裕子(北海道大学教育学研究科博士後期課程)「1930年代の樺太における実業教育政策―樺太公立実業補習学校を中心に」

三木理史(奈良大学文学部)「1930年代の樺太石炭業と拓殖計画―樺太における植民地性の分化をめぐって」

竹野学(北海道大学経済学研究科)「戦時期樺太における製糖業の展開―樺太精糖株式会社と甜菜栽培農家の関係を中心に」

第6回研究会(2004年8月31日)

左近幸村(大阪大学文学研究科博士前期課程)「20世紀初頭のロシア極東における『ロシア化』政策」

オイドフ・バトバヤル(北海道大学文学研究科博士後期課程)「日本の一次史料から見たモンゴル情勢とロシア・モンゴル関係 1911―1915」

第7回研究会(2004年10月22日、ロシア史研究会大会前夜企画 Panel1: The Russian Empire and a Maritime History of the Northern Pacific として開催)

Andrei Grinev (St Petersburg Trade Union University, Russia), “The Russian Politicism as Main Reason for the Sale of Alaska”

Igor Lukoianov (St Petersburg Institute of History, RAS, Russia), “Russian Imperialism Goes to the Far East: Dreams and Results”

Eisuke KAMINAGA (AJSPS Research Fellow, University of Tokyo), “Debates over Fishery

Regulation in the Priamur Governor-Generalship, 1884-1904”

第8回研究会(2004年12月8日、北海道大学スラブ研究センター冬期国際シンポジウム第2セッションとして開催)

天野尚樹(北海道大学文学研究科博士後期課程)「帝政期ロシアの領域認識:心象地理のなかのサハリン」

塚田力(北海道大学文学研究科博士後期課程)「中国ホロンバイル盟における正教古儀式派(1920-1950年代)」

附録Ⅱ スラブ研究センターにおけるサハリン地域研究関連の企画(2003-2004)

専任研究員セミナー(2003年11月13日)

村上隆(センター)「北樺太石油会社の事業展開」・「トラスト・サハリンネフチによる石油開発」

専任研究員セミナー(2003年12月22日)

原暉之(センター)「俘虜は博愛の心を以て之を取り扱ふべし:樺太の戦場から100年前の戦争を考える」

専任研究員セミナー(2004年2月26日)

荒井信雄(センター)「1990年代における日口水産貿易:そのプラスとマイナス」

北海道スラブ研究会(2004年3月19日)

井上紘一(センター)「プロニスワフ・ピウスツキの足跡を尋ねて40年—就中、その極東滞在の究明—」

北海道スラブ研究会(2004年4月28日)

井澗裕(センター非常勤研究員)「サハリンの日本期建築:その歴史と現況」

夏期国際シンポジウム「21世紀のシベリア・極東:“アジア共同体”のパートナー」(2004年7月14~16日)

◇第4セッション「サハリン(樺太)とクリル(千島)の歴史」

M・ヴィソコフ(サハリン国立大学、ロシア)「サハリン州史の新しい教科書」

長谷川毅(カリフォルニア大学サンタバーバラ校、米国)「太平洋戦争時のスターリン、トルーマン、そしてクリルにおける軍事作戦」

◇第5セッション「チーフ・サハリン・日本」

I・ツペンコワ(A・P・チェーホフ「サハリン島」博物館、ロシア)「現代のチェーホフ:ロシア極東の文化空間にて」

A・ダーキン(インディアナ大学、米国)「罪とサハリン:チェーホフ『殺人』におけるドストエフスキー的意味」

望月恒子(北海道大学文学研究科)「チェーホフのサハリン旅行:旅の歴史的コンテキスト」

2004年北東アジア次世代ワークショップ(2004年7月17~18日)

◇第1セッション「北東アジア(ロシア極東)におけるフィールドワークの経験」

井澗裕(センター非常勤研究員)「1905~45年の南樺太における都市の形成:豊原の場合」

白石英才(フローニンゲン大学、オランダ)「サハリンの消滅の危機に瀕する諸言語をフィールドワークする」

山下亮(在ユジノサハリンスク日本総領事館)「サハリンにおけるコリアン・ディアスポラ」

センター・セミナー(2004年8月23日)

V・カルポフ(ウクライナ軍中央博物館、ウクライナ)「第二次大戦後のサハリン・クリル諸島からの日本民間人・軍事捕虜の本国送還」

M・ヴィソコフ(サハリン国立大学、ロシア)「第二次大戦後のサハリン州の経済発展:ロシアの島嶼植民地領域における社会主義モデルの成立、開花、そして崩壊」